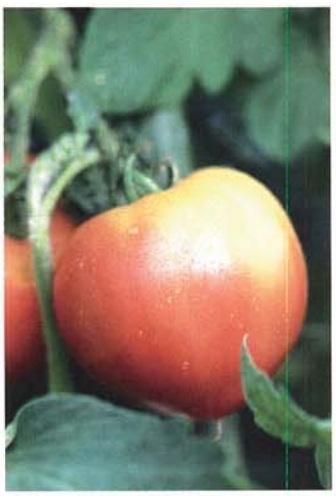




# アドマイア<sup>®</sup> 水和剤

## 果樹・果菜類の 害虫防除に長く効く！

- 果樹や野菜のアブラムシ類に長期間優れた効果を示します。
- 果菜類のミナミキイロアザミウマに対して確実な効果と残効性があります。
- 果樹（もも、なし、かき）のカメムシ類による果実被害を長期間防止します。



ワタアブラムシ



モモアカアブラムシ



チャノキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ



タバコナジラミ



## ■適用害虫および使用方法

(2008年10月現在の登録)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール 当り使用 液量(ℓ)	使用 時期*	本剤の 使用 回数*	使用方法	イミダクロプリド を含む農業の 総使用回数*
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	1,000~2,000	200~700	3日	2回	散布	2回
	な し	アブラムシ類 カメムシ類					
も も	アブラムシ類 モモハモグリガ	1,000~2,000					
	カメムシ類	1,000					
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ	1,000~2,000					
	カメムシ類	1,000					
ぶ どう	チャノキアザミウマ フタテンヒメコバイ	1,000~2,000 1,000					
	か き	チャノキアザミウマ カキグダアザミウマ カメムシ類					
う め す も も	アブラムシ類	2,000					
く り	クイガアブラムシ	1,000					
マンゴー	チャノキアザミウマ						
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	2,000	60~150	30日	2回	3回 (種もみへの処理 は1回、育苗箱への 処理および側条施 用は合計1回、本田 での散布は2回)	
稲 (箱育苗)	イネドロオイムシ イネミスズムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類	100	育苗箱(30× 60×3cm、使 用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	移植 2日 前~ 移植 当日	育苗箱当り 希釈液0.5ℓ を苗の上か ら灌注する	3回 (育苗箱への処理 および側条施用は 合計1回、本田での 散布は2回)	
湛水直播 水稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類	-	種もみ3g当り 150~200g	1回 は種 前	1回 過酸化カルシ ウム剤との同 時混粉衣(地 上は種用、空 中散布および 無人ヘリコ プターによ る散布)	3回(種もみ への処理は1 回、本田での 散布は2回)	
小 麦	ヤギシロトビムシ		種子重量 の0.15%		種子粉衣	3回(種子粉衣は 1回、散布は2回)	
ばれいしょ	アブラムシ類	1,000~3,000	100~300	14日	2回	散布 無人ヘリコ プターによ る散布	3回(植付時 の土壌混和は 1回、植付後 は2回)
		16					
きゅうり	アブラムシ類 オンシツコナジラミ ミナミキアザミウマ	2,000	100~300	前日	3回	散布	4回(育苗期の株 元散布および定 植時の土壌混和 は合計1回、散 布および常温煙 霧は合計3回)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール 当り使用 液量(ℓ)	使用 時期*	本剤の 使用 回数*	使用方法	イミダクロプリド を含む農業の 総使用回数*
す い か	アブラムシ類 ミナミキアザミウマ						4回(定植時の 土壌混和は1 回、散布は3回)
メ ロ ン	アブラムシ類 ミナミキアザミウマ タバココナジラミ類 (シム(リー)アザミウマを註)			3日	3回		4回(育苗期の 株元散布およ び定植時の土 壌混和は合計 1回、散布は3回)
ト マ ト	アブラムシ類 タバココナジラミ類 (シム(リー)アザミウマを註) オンシツコナジラミ	2,000	100~300	前日	2回	散布	3回(育苗期の 株元散布およ び定植時の土 壌混和は合計 1回、散布は2回)
ピーマン	アブラムシ類 ミナミキアザミウマ						3回(育苗期の 株元散布およ び定植時の土 壌混和は合計 1回、散布は2回)
てんさい	テンサイトビハムシ アブラムシ類	60	ペーパーポット 1冊当り 1ℓ(3ℓ/m)	定植時		苗床灌注	
茶	チャノキアザミウマ	1,000~2,000	200~400	摘採 7日	1回	散布	1回
	チャノドリヒメコバイ	1,000					
	チャノホソガ						
たばこ	アブラムシ類	2,000	100~180	10日			2回(植付時の 土壌混和は1 回、散布は1回)

## ■常温煙霧

適用場所	作物名	適用害虫名	10アール 当り使用 量(g)	10アール 当り使用 液量(ℓ)	使用 時期*	本剤の 使用 回数*	使用方 法	イミダクロプリド を含む農業の 総使用 回数*		
温室、ガラス 室、ビニール ハウス等密閉 できる場所	きゅうり	アブラムシ類	100	5	前日	3回	常 温 煙 霧	4回(育苗期の株 元散布および定 植時の土壌混和 は合計1回、散 布および常 温煙霧は合計3回)		
	な す								2回	3回(育苗期の株 元散布および定 植時の土壌混和 は合計1回、散 布および常 温煙霧は合計2回)
	ぶ どう								チャノキアザミウマ	200

\*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。

## ■注意事項

- ネクタリンおよびすももでは品種により、葉に葉害(軽い穴あき症状)を生ずることがありますので注意して下さい。
- かきのカキグダアザミウマについて使用する場合は、巻葉後の散布では効果の劣る場合がありますので注意して下さい。
- 湛水直播水稲に使用する場合は、次の項目を守って下さい。
  - ①本剤を直接もみに処理すると葉害を生ずる恐れがありますので注意して下さい。
  - ②処理する葉量は種もみの量に合わせて調整して下さい。
  - ③過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に、過酸化カルシウム剤と本剤を混合したものを種子に湿粉衣して下さい。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守って下さい。
- 稲(箱育苗)に使用する場合は、軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには葉害を生ずる恐れがありますので注意して下さい。●稲(箱育苗)に使用する場合には、誤って過剰に使用したり、本剤使用後3日以上移植せずに育苗箱におくと、葉枯れなどの葉害を生ずることもありますので、所定の使用量・使用時期・使用方法を厳守して下さい。●稲(箱育苗)に使用する場合には、本田の整地が不平整な場合は葉害を生じやすいので、代かきまたは丁寧に行ない、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- 常温煙霧は専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧して下さい。特に常温煙霧装置の選定および使用に当たっては、病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 常温煙霧はできるだけ日中の煙霧を避け、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態にして下さい。
- 無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
  - ミツバチに対して影響がありますので、養蜂が行なわれている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
  - 散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。

- 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
- 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布装置その他散布装置の十分な点検を行なって下さい。
- 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装などに被害を与える恐れがあるなど各分野に影響がありますので散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
- 水源池、飲料用水などに本剤が飛散・流入しないように十分注意して下さい。
- 散布終了後は、次の項目を守って下さい。
  - ①使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄して下さい。
  - ②機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理して下さい。
- 医薬用外劇物なので、取り扱いに十分注意して下さい。
  - 散布時は、防護マスク、不透水性手袋、不透水性防除衣などを着用して下さい。
  - 薬剤が眼に入らないように注意して下さい。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けて下さい。
  - 皮膚に付着しないように注意して下さい。
  - 畜に対して長期毒性がありますので、絶対に糞葉にかからないようにして下さい。
  - ミツバチに対して影響がありますので、以下のことに注意して下さい。
    - ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散する恐れのある場合には使用しないで下さい。
    - 受粉促進を目的としてミツバチなどを放飼中の施設や果樹園などでは使用を避けて下さい。
    - 養蜂が行なわれている地区では周辺への飛散に注意する安全な、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
  - マルハナバチには影響がありますので、本剤使用後は他の方法(人工受粉、植物ホルモンなどで受粉作業をして下さい)。
  - 使用量に合わせ薬液を調整し、使い切ってください。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。